

序 章 郡山市観光戦略ビジョンの策定について

1 策定の目的

本市の観光産業を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少や、グローバルな観光誘客の激化、東日本大震災の影響等厳しい状況に置かれております。

このような中、国は観光産業を基幹業務へと成長させ「観光先進国」¹の実現に向けた取り組みを進めており、また、ICT²の急速な進化に伴う「モノ」消費から「コト」消費³への移行、産業・世代・地域のボーダレス化など新たな課題、日本版DMO⁴、こおりやま広域圏⁵との連携、SDGs⁶への取り組み、国際化に伴う多文化共生⁷など時代の要請に応じた観光振興が急務となっております。

これらの課題を解決し、本市の観光産業が更に発展していくために、本市の総合的な観光戦略の方向性を示すものです。

¹観光先進国：全国津々浦々その土地ごとに、日常的に外国人旅行者をもてなし、活発な異文化交流が育まれる世界に開かれた国

²ICT(アイ・シー・ティー)：Information and Communications Technology。情報処理や通信に関する技術、サービス等の総称

³「モノ」消費から「コト」消費へ：「モノ」消費は、所有に重きを置いて物品を購入すること。「コト」消費は、所有では得られない体験や経験そのものの購入に価値を見出すこと。

⁴DMO(ディー・エム・オー)：Destination Management/Marketing Organization。地域の観光資源に精通し、地域住民や団体と協働して観光振興を担う法人。日本でも、「日本版DMO」として、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、誇りと愛着を醸成する観光地作りを実現するための団体と位置づけられている。本市では平成31年1月1日現在(一社)郡山市観光協会が候補法人として登録されている。

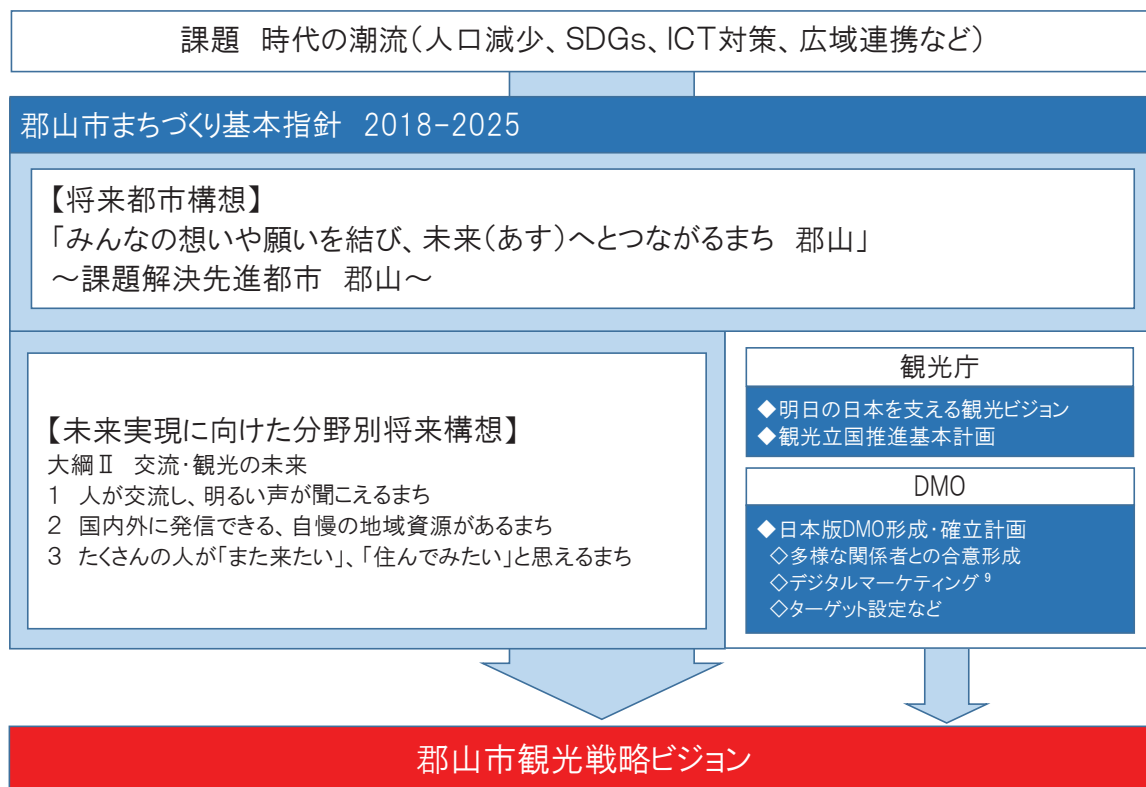
⁵こおりやま広域圏：「こおりやま広域連携中枢都市圏」の通称。市町村が連携し、一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成する制度により。郡山市及び関係14市町村(須賀川市、田村市、本宮市、大玉村、鏡石町、天栄村、猪苗代町、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町)により構成

⁶SDGs(エスディー・ジーズ)：世界が抱える問題を解決し持続可能な社会をつくるため、2015年9月の国連サミットで採択、加盟193か国が全会一致で合意した17の目標と169のターゲットからなる2030年までの15年間の国際目標。

⁷多文化共生：国籍や民族など異なる人々が、互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

2 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、本市の最上位計画となる「郡山市まちづくり基本指針」⁸の観光関連分野における方針を示すものであり、本市の観光推進の方向性や実施に係る戦略的な視点を示すとともに、観光関連事業者、観光関連団体をはじめ、DMOとの連携により観光施策を推進するための方針となるものです。



⁸郡山市まちづくり基本指針：本市の最上位計画。市民や事業者も含めた郡山市全体が目指す将来都市構想を描く「公共計画（8年計画）」と、その実現に向けて行政が取り組むべき事業や各分野別計画などを示す「行政計画（4年計画で毎年社会経済情勢などの環境の変化に対応して見直し）」の2階層で構成される。

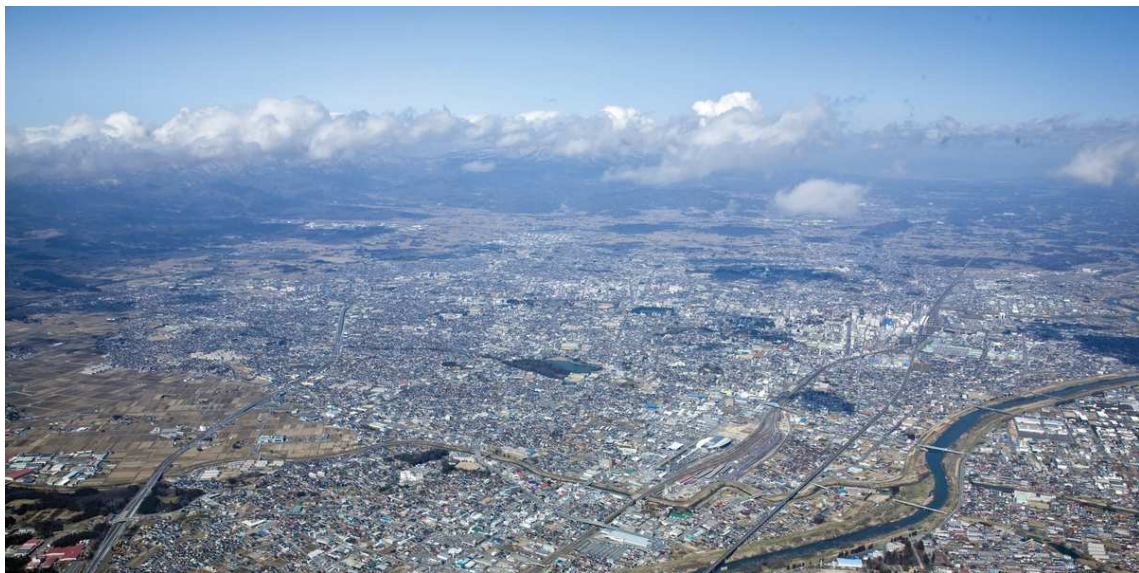
⁹デジタルマーケティング：ICTを活用したマーケティング。マーケティングとは顧客が求めるサービスや商品を作り、顧客に情報を届け、顧客がその価値を得られるようにする概念

3 計画期間

本ビジョンは、2019 年度（平成 31 年度）を初年度とし、概ね 7 年後の 2025 年度を目標年度とします。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた国の施策が終了する 2020 年度以降に国の政策や、社会経済情勢等の大きな変化に合わせて、適宜、見直しを想定しています。

内容	2018 (H30)	2019	2020	2021	～2025
まちづくり 基本指針	2018～2025				
観光戦略 ビジョン		2019～2021			(2025)
				● 内容の見直し	
国	◇明日の日本を支える観光ビジョン 2016～2030				
	◇観光立国推進基本計画 2017～2020				
		◇ラグビーワールドカップ2019	◇東京オリンピック・パラリンピック		◇大阪万博



郡山市航空写真